

第31回新潟県高等学校総合文化祭・放送部門

兼 第30回新潟県高等学校放送コンクール

兼 第37回QK杯校内放送コンクール

兼 第14回北信越高等学校選抜放送大会・長野大会 新潟県代表選考会

兼 第42回全国高等学校総合文化祭・長野大会放送部門 新潟県代表選考会

実施要項

主催 新潟県高等学校文化連盟 NHK新潟放送局（JOQK）

共催 新潟県高等学校教育研究会視聴覚部会

主管 新潟県高等学校文化連盟放送専門部

1 日時 平成29年11月14日（火） 9:00 ~ 17:00

2 会場 長岡リリックホール・シアター

〒940-2108 新潟県長岡市千秋3丁目1356番地6 TEL 0258-29-7711

3 日程 （予定…エントリー数により変更することがあります。）

9:00 10:00 10:30 11:00 12:00 13:00 14:30 15:20 16:00 17:00

受付	開会式	テレビ 番組部門	アナウン部門	昼休み	朗読部門	ラジオ 番組部門	テレビ CM部門	講評・表彰 閉会式
----	-----	-------------	--------	-----	------	-------------	-------------	--------------

→受付時にアナウンス&朗読の課題配布

4 実施部門および参加資格

(1) アナウンス・朗読部門

アナウンスは郷土の話題を高校生に伝える内容の校内放送の原稿を作成し、発表する。

朗読は、指定された作品を選び、発表する。

1,2年生で、各部門とも人数制限は設けません。

なお本選に先立ち、録音媒体提出による予選を実施します。

(2) ラジオ番組・テレビ番組・テレビCM部門

ラジオ番組・テレビ番組は、郷土の話題を高校生に伝える内容の校内放送用作品にする。

テレビCM部門は、「自校を紹介する作品」または「自校の周辺地域を紹介する作品」或いは「北信越大会・長野大会に準拠した作品」（北信越大会の作品規定は別紙）。

1,2年生が制作する作品で、各部門とも1校2作品までとします。

5 参加申込方法

(1) 参加申込書を県高文連HPの放送専門部リンク <http://www.kobunren.jp/~housou/> からダウンロードし、必要事項を入力の上Eメールにファイル添付して送信してください。

(2) 更にファイルを印刷し学校長印を押印した参加申込書を、大会当日迄に提出してください。

※送信先・問合せ先（大会主管担当）

kato.akira@nein.ed.jp

（県立長岡商業高等学校 加藤 晶 宛）

送信締め切り日 平成29年10月31日（火）までに必着

6 提出するもの

(1) アナウンス・朗読部門

- ①原稿台本（1人につき7部）
1名につき、規定のA4袋とし（仕上がりA5製本）で作成のこと。（コピーで増刷可）
- ②予選審査用の音声CD-R
部門ごとに1枚を使用してください。
- ③予選結果・講評の返送用封筒〔返信先記載・切手貼付済のもの〕
返送する講評用紙の量も多いので「レターパック」をお勧めします。
※アナウンス部門で静止画映像を用いる場合は、さらに以下も必要です。
- ④静止画データのCD-R（画像使用希望者のみ）
5画像以内とします。詳しくは「別紙制作規定」を参照のこと。
- ⑤静止画を映す箇所を記載した指示書1枚（画像使用希望者のみ）
学校名、氏名を記載した「A4をタテにした横書き原稿」

※提出先・問合せ先（大会主管担当）

〒940-0817 長岡市西片貝町字大木1726

県立長岡商業高等学校 加藤 晶 宛

TEL (0258) 35-1502 FAX (0258) 39-1736

提出締め切り日 平成29年10月31日(火) 消印有効・または直接持参可

(2) ラジオ番組・テレビ番組・テレビCM部門

- ①番組作品メディア…（ラジオはCD-R、テレビはDVD-RまたはBD-R）
- ②番組進行表・CUEシート等（1作品につき2部）
規定のA4プリントで、折らずに左上綴じにします。
番組における著作権処理は、制作校の責任において処理してください。
 - 楽曲著作権は「JASRAC等の手続書」
 - 写真、資料等の著作隣接権は「関係各所の許諾書」をそれぞれとってコピーを最後に綴じ込んでください。
原稿様式は「[NHK杯全国高校放送コンテスト](#)」に準じてください。
- ③ラジオ番組に映像を映す場合は、別途に静止画データのCD-R

※提出先・問合せ先（番組部門担当）

〒940-0084 長岡市幸町2-7-70

県立長岡工業高等学校 平倉 政弘 宛

TEL (0258) 35-1976 FAX (0258) 39-2054

提出締め切り日 平成29年10月31日(火) 消印有効・または直接持参可

或いは、大会当日持参可(11月14日・9:30迄に受付提出)

※なお、番組部門の提出物は、大会当日の受付時でも提出が可能ですが、

当日提出の締め切りは9:30です。提出に間に合わない、再生不能となったりした場合は失格です。

※番組部門の大会申込後のタイトル変更は認めません。申込と大会当日のタイトルに差異があった場合は、失格もしくは減点の対象となります。

※別紙「映像データ入力時の補足」を参照してください。

7 アナウンス・朗読部門の予選審査

- ①本選前に、予選審査を11月5日（日）に非公開で実施いたします。
- ②予選通過者が本選の出場資格者となります。なお、審査結果と講評用紙を郵送返却します。
- ③予選通過者は、両部門ともそれぞれ40名程度の見込みです。
- ④11月9日（木）までに結果が届かない場合は、担当の長岡商業・加藤にご連絡ください。

8 参加料

①アナウンス・朗読部門・CM部門	1名・1作品につき	1,000円
②ラジオ・テレビ番組部門	1作品につき	2,000円

(1) 以下の口座に**11月1日(水)までに振り込んでください**（振込手数料は各校負担）

参加料送金先

【銀行名】 ゆうちょ銀行 【店名】 一二八（イチニハチ） 【店番】 128

【預金種目】 普通預金 【口座番号】 2923593

（郵便振替の場合 記号：11220 番号：29235931）

【口座名義】 高文連放送専門部（コウブンレンハウソウセンモンブ）

(2) 参加費は、10月31日の期日までに、申し込みをされた人数・作品数で徴収します。
出場辞退及び予選不通過の場合でも納入していただきますことをご了承ください。

9 朗読部門指定作品

- ① 坂口安吾 著「桜の森の満開の下・白痴」（岩波文庫）から
「桜の森の満開の下」または「夜長姫と耳男」
- ② 松岡 譲 著「漱石の印税帖」（文春文庫）から
「漱石の万年筆」または「贗漱石」
- ③ 新潟県にかかわりのある作家・作品から選んだもの（出版社は問わない）
※ただし、①②の指定以外の章と、昨年度の指定作品は除く。

注意：③を選んだ場合、新潟県との関わりの説明を、簡単に提出原稿表紙の指定欄に記入する。

[参考：昨年度の指定作品]

長嶋 有 著「佐渡の三人」 講談社文庫 講談社

吉屋 信子 著「小さき花々」 河出文庫 河出書房新社

10 表彰

各部門とも、

NHK新潟放送局から、1位～3位まで、

新潟県高等学校文化連盟から、1位～3位までと奨励賞を表彰します。

11 選考による上位大会推薦枠

1. 第42回（平成30年度）全国高等学校総合文化祭・長野大会の放送部門「新潟県代表」に、入賞者、入賞作品の中から下記の通り推薦する。

（平成30年8月9日（木）～10日（金）実施）

全 国 総 文	アナウンス部門……………3名
	朗 読 部 門……………3名
	オーディオピクチャー部門……………ラジオ番組部門制作校より1校
	ビデオメッセージ部門……………テレビ番組部門制作校より2校
	CM部門……………テレビCM制作校から1校～2校 ※合同チーム可 （CM部門の合同チームの推薦基準は別に定める）

2. 第14回（平成29年度）北信越高等学校選抜放送大会・長野大会の「新潟県代表」に、入賞者、入賞作品および奨励賞の中から下記の通り推薦する。

（平成30年2月11日（日）～12日（月・祝）実施）

北 信 越	アナウンス部門……………6名
	朗 読 部 門……………6名
	オーディオピクチャー部門……………ラジオ番組部門制作校より2校
	ビデオメッセージ部門……………テレビ番組部門制作校より4校
	CM部門……………テレビCM制作校から2校

12 北信越大会出場者特別講習会

アナウンス部門・朗読部門の入賞者は、以下の日程の特別講習会に参加してください。

1月28日（日） 終日

新潟市内にて開催予定（会場調整中）

13 別紙資料

- ①第37回QK杯校内放送コンクール作品制作規定 (P. 5～7)
- ②機器担当より映像データ入力について補足 (P. 8～9)
- ③QK杯校内放送コンクール審査基準各部門の審査基準 (P. 9～12)
- ④第14回北信越高等学校選抜放送大会・長野大会実施要項 (別紙)
- ⑤北信越長野大会CM部門参加規定 (別紙)
- ⑥第42回全国高等学校総合文化祭・長野大会実施要項 (別紙)

以上

第37回QK杯校内放送コンクール作品制作規定

1. アナウンス部門

(1) 原則として、郷土（つまり新潟県）の話題を高校生に伝える内容の自作原稿とし、エントリー番号、学校名、氏名も含めて、1分10秒～1分30秒でアナウンスします。

*来年度全国高校総合文化祭のテーマに沿いましたが、万一、他原稿で入賞して全国大会に推薦された場合は、新たにテーマに合った原稿による出場をお願いすることになります。

- JPEG形式のデジタル静止画像（5コマ以内）の投映が可能です。
- その場合の画像サイズは、1366×768ピクセルです。
- 静止画上映ソフトは、マウスの Windows Picture and Fax Viewer です。
- BGMは使用不可です。
- QK杯でもできるだけ、画像使用の方向でご検討ください。

- (2) 当日、課題原稿が提示されるので、自作原稿に続いてアナウンスしてください。
- (3) CD-Rには、CD-DA形式（NHK杯と同じ）で「1人1トラック」で記録してください。
- (4) CDの「盘面とケース」には、「学校名・部門名・出場者名・学年」を記載してください。
- (5) 録音は参加申込書に入力した順番とし、エントリー番号の代わりに録音番号を読み上げること。

2. 朗読部門

- (1) 指定作品（3作品）の中から1作品を選び、エントリー番号、校名、氏名、作者名および作品名を含めて、1分30秒～2分で朗読します。
- (2) 原作文の脚色・変更は認めず、原文通り抽出し、文頭から開始して文末で終了させます。
なお、本文中の（ ）内は読み、読み仮名は読みません。
- (3) 当日、課題原稿が提示されるので、各自の原稿に続いて朗読してください。
- (4) 効果音、BGMは、QK杯においては「使用不可」とします。
- (5) CD-Rの取り扱いについては、アナウンス部門の（3）～（5）と同様にします。

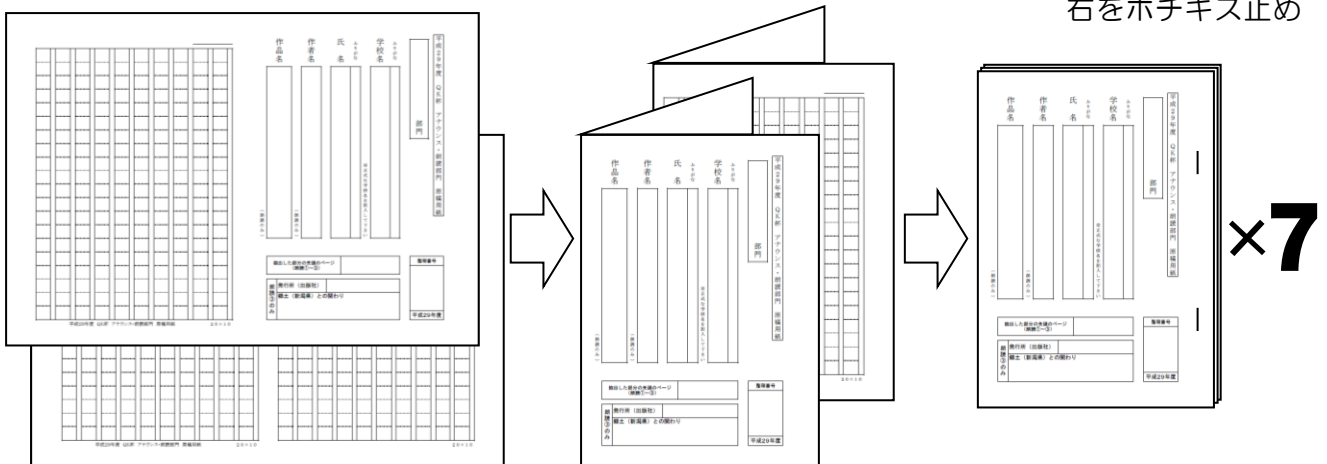
【原稿の作り方】

①各、A4サイズで印刷・作成

②各、二つ折り

③袋綴じて

右をホチキス止め



※コピーするなどして、1人の出場者につき7部ずつ作成・提出してください。

3. ラジオ番組部門

(1) 原則として、郷土に関する話題を取り上げたオリジナル作品とし、内容・手法は自由です。

*作品をオーディオピクチャー（AP）形式として制作する場合は、以下の来年度高総文祭の基準を参考にしてください。

- CD-Rによるステレオ音声とJPEG形式のデジタル静止画像とします。
- 画像サイズは、1366×768 ピクセルです。
(1つの作品の中で異なる画像サイズが、混在しないようにしてください。)
- 25画像以内、総容量は100MB以内とし、プロジェクター1台での投映です。
- 音声CDと画像データCDは、別々のCD-Rにて作成してください。

(2) 規格は、次のとおりとします。

- ①制作時間は5分以内とし、CD-DA形式（NHK杯と同じ）で作成します。
- ②最後に「…制作は〇〇高等学校放送部（研究会、委員会等）でした。」というクレジットコールを入れてください。
- ③計時は、音の出始めから計り、クレジットコールの終わり「…でした。」までとします。
- ④LRミックス再生は行いません。ステレオ対応再生となります。
- ⑤必ず市販のCDプレーヤーを使って、再生が出来ることを確認してください。

4. テレビ番組部門

(1) 原則として、郷土に関する話題を取り上げたオリジナル作品とし、内容・手法は自由です。

(2) 規格は、次のとおりとします。

- ①制作時間は5分以内とし、DVD-RもしくはBD-R（片面一層対応）で作成します。
- ②本編の前後に各10秒間の静止画によるテストパターン（形式は自由）を録画します。
- ③DVD-Rの場合は、DVD-VIDEO形式で記録し、ファイナライズ処理をしてください。
- ④ディスク作成時は「メニュー」をつけないこと。
- ⑤アスペクト比は「16：9」のこと。
- ⑥必ず、市販の家庭用DVDプレーヤーまたはBDプレーヤーを使っての再生を確認して下さい。

5. CM部門

(1) 内容は「自校を紹介する作品」または「自校の周辺地域を紹介する作品」、
或いは「北信越大会・長野大会に準拠した作品」

(2) 時間は30秒で作成する。

(3) 規格はテレビ番組に準ずる。

※次回の、北信越・長野大会および全国総文・長野大会での独自企画。

北信越・長野大会では「長野県諏訪地区周辺をアピールするテレビCM」を出品。

詳細は「北信越長野大会CM部門参加規定」を参照。

全国総文・長野大会では期間中に「長野県諏訪地区周辺をアピールするテレビCM」作成。

(4) CM部門の全国総文・長野大会への推薦については以下の手順で推薦校を決定する

- ①申込時に「合同チームの可否」の希望を取る
- ②1位が単独での参加を希望する場合は、1位のみを推薦する
- ③1位が合同チームでの参加を希望する場合は、2位以降の上位から合同チームを推薦する
- ④2位以降が単独での参加を希望する場合は、3位以降から合同チームを推薦する

6. 各部門の様式

①アナウンス・朗読部門は、指定された用紙を使用してください。

(県高文連放送専門部のHPからダウンロードできます。)

②番組部門の進行表・CUEシート等は、NHK杯全国高校放送コンテスト要項に準拠します。

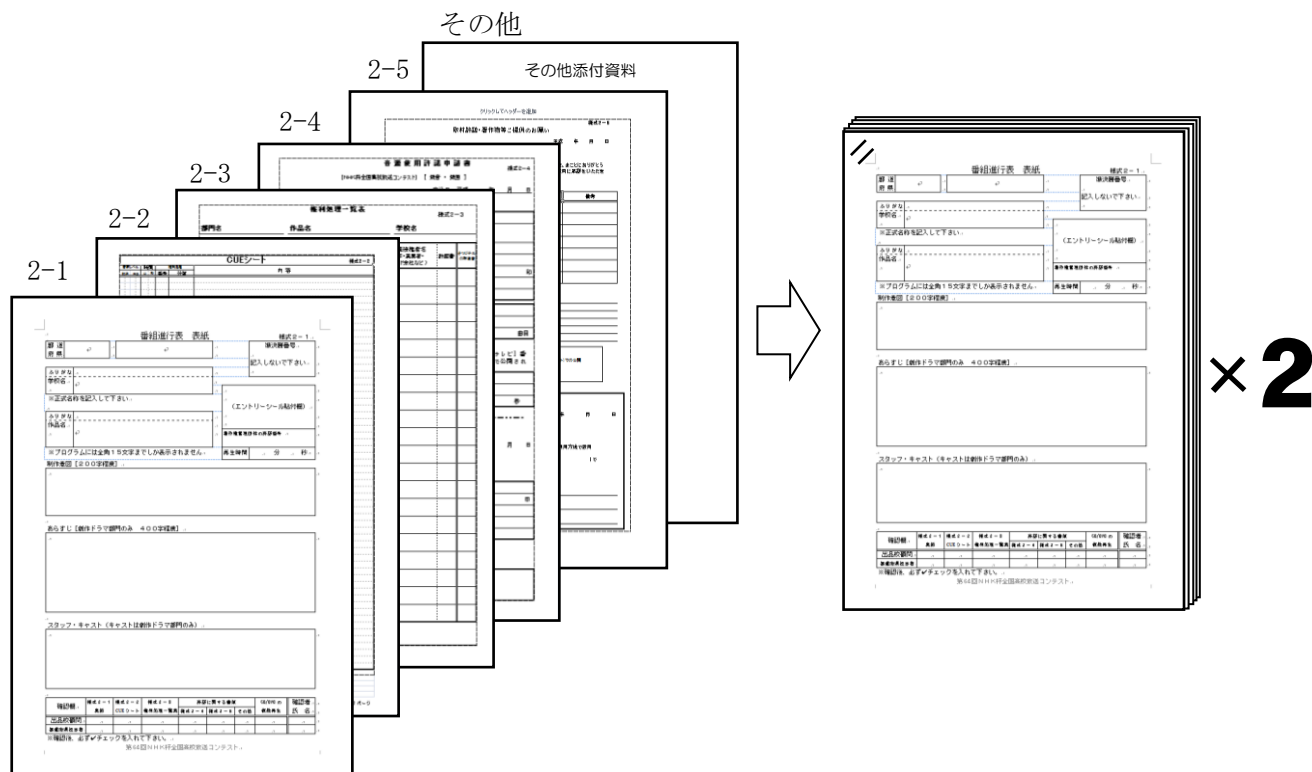
(NHK杯全国高校放送コンテストのホームページよりダウンロードできます。)

【番組部門の進行表・CUEシート等の作り方】

①様式2-1～2-5各、A4サイズで印刷・作成

②用紙の左上をホチキス止め

※様式2-1～2-3は必須。2-4・2-5及びその他は必要に応じて作成。



※コピーするなどして、1作品につき2部ずつ作成・提出してください。

以上

機器担当より映像データ入力について補足

(1) アナウンス部門の「静止画データ処理」

- ① 画像サイズは、1366 × 768 ピクセルで作成してください。
(画像の上下または左右に余白があっても結構ですが、画像サイズは統一してください)
- ② ファイル名指定の方法
→参加申込みの時点では、エントリー番号が決定していないので、次の要領をお願いします。
●出場者ごとに「フォルダ」を作って下さい。フォルダ名は「氏名」で結構です。

例：3枚目の画像の場合



A_03.jpg としてください。

A (半角) + 「アツダバ-」 (半角) 1つ + 03 (半角数字で2つ) + . (ドット) + jpg

(2) ラジオ番組部門で、APの「静止画データ処理」

- ① 画像サイズは、1366 × 768 ピクセルで作成してください。
(画像の上下または左右に余白があっても結構ですが、画像サイズは統一してください)
- ② ファイル名指定の方法

例：25枚目の画像の場合



AP_25.jpg としてください。

AP (半角) + 「アツダバ-」 (半角) 1つ + 25 (半角数字で2つ) + . (ドット) + jpg

- ③ 最初と最後の画像ファイルに「黒画像」も入れておいてください。

例：最初の黒画像の場合

最後の黒画像の場合



AP_00.jpg としてください。



AP_99.jpg としてください。

(3) ラジオ番組作品の「音声記録メディア処理」

- ・CD-Rを使用して「CD-DA形式」にて録音をしてください。
- ・送付・提出前に、あらかじめ民生機で再生して、音が出ることを確認してください。
- ・大会当日に提出する場合は、念のためバックアップ用CD-Rも持参してください。

(4) 音声・映像CD-Rに関する確認

- 以下のように、部門別、ファイル別にCD-Rは別々に作成して、それぞれのレーベル面とケースの両方に「学校名と部門名」を記載または貼付をして提出してください。
アナウンス部門：「予選審査音声CD」（希望者のみ、さらに「画像用CD」）
ラジオ番組部門：「音声作品CD」及び「スライド用画像CD」

(5) 提出締め切りの厳守 ※重要

送られた映像データは、大会前にパソコンへの取込作業、運営リハーサルをしますので、以下の注意点をご確認ください。

- ①アナウンスの「投影映像CD」→→→10月31日（木）までに長岡商業（担当：加藤）
- ②ラジオ番組の「スライド映像CD」→10月31日（木）までに長岡工業（担当：平倉）
へ送付をお願いいたします。
- ③いずれも、郵送の場合は10月31日（木）の消印有効（直接持参も可能）です。
- ④なお、番組部門の提出物は、大会当日の受付時でも提出が可能ですが、
提出の締め切りは9:30です。提出が間に合わない場合は失格です。
- ⑤大会当日持参の場合、事前のチェックもできませんので、再生不能となった場合は失格です。

以上

1. アナウンス部門

(1) 原則として郷土の話題を全国の高校生に伝える内容であること。当日渡された課題を適切に伝える。

(2) 審査の視点

a. 内容

(ア) 素材の選び方は適当であるか。

(イ) 文章表現は適当であるか。

b. アナウンスの技術

(ア) 自然な発声で聞き手に伝わるようにアナウンスされているか。

・発声・発音・マイクの使い方

(イ) 正しく意味を伝える抑揚表現ができているか。

・内容把握・イントネーション・プロミネンス・アクセント

(ウ) 間（ポーズ）は適切か

・テンポ・ポーズ

(3) 採点は100点法とし、(2) a、bに留意し、総合的に採点する。点数は100点法。

(4) 審査の留意事項

・自然な語りかけで、伝達力・説得力のあるアナウンスを高く評価する。

・基礎的・基本的事項の不備なものに高い評価をしない。

（特に鼻濁音、無声化、語尾ののび、イントネーション（始高終低）等について）

・元気があり明るく演示するものは良いが、歌い上げ・作り声・バスガイド調などのいわゆるコンテスト調のものを高く評価しない。

2. 朗読部門

(1) 指定作品の中から1編を選び、自己の表現したい部分を抽出のうえ、規定時間内で読む。作品の脚色は認めない。当日渡された課題を適切に伝える。

(2) 審査の視点

a. 内容

(ア) 作品の選定は適しているか。

(イ) 朗読として適切な部分を選定しているか。

b. 朗読の技術

(ア) 内容表現上、声の出し方や言葉の運びが自然で適切か。

・発声・発音・マイクの使い方

(イ) 正しく意味を伝える抑揚表現ができているか。

・内容把握・イントネーション・プロミネンス・アクセント

(ウ) 間（ポーズ）は適切か

・テンポ・ポーズ

(3) 採点は100点法とし、(2) a、b、cに留意し、総合的に採点する。

(4) 審査の留意事項

- ・自然で深みのある朗読を高く評価する。
- ・基礎的・基本的事項の不備なものに高い評価をしない。（特に鼻濁音、無声化、語尾ののび、イントネーション（始高終低）等について）
- ・作り声、過度の感情移入、あるいは自分一人で酔っているような朗読については厳しく評価する。
- ・過度のラジオドラマ調、演劇調、一人芝居調のものを高く評価しない。

3. 読みの部門の点数の目安

(ア) 審査員の点数の目安は、以下の基準で行う。

点数	レベル	ランク
90点以上	プロレベル	プラチナ
80～89点	全国大会入賞レベル	金
70～79点	全国大会出場レベル	銀
60～69点	全国大会出場予備軍	銅
50～59点	校内放送実戦レベル	—
40～49点	校内放送練習レベル	—
39点以下	基礎力養成レベル	—

(イ) 審査終了後、参加者にランクを伝える。（点数は伝えない）

(ウ) 失格も伝える

4. 読みの分野の規定違反について

(ア) アナウンス・朗読部門規定時間不足、超過（3秒以上の過不足は失格）

(イ) 不適切な表現（差別的な表現、商品名の連呼、残酷な表現等）について（20点の減点）

(ウ) 作品、ニュース内容の根幹に関わるような大きな読み違い（20点の減点）

(エ) その他、様式違反、読み違い等は注意事項とする。

5. 番組部門（※CM部門も準ずる）

(1) 内容について

ラジオ・テレビの特性を生かして作品に表現していること。自校オリジナル作品とし、内容、手法は自由とする。

(2) 審査の視点について

(ア) テーマ

- ・ラジオ番組部門：原則として郷土に関する話題を取り上げた作品であること
- ・テレビ番組部門：原則として郷土に関する話題を取り上げた作品であること

(イ) 制作技術：制作の手法、取材の方法や努力、企画構成、演出・編集、技術（録音・録画の技術、アナウンスやナレーションの技術、音楽や効果音の使い方など）

(3) 採点と順位について

- ・テーマに沿っていない場合は全国大会へは推薦しない場合がある。
- ・なお、番組部門の審査の視点については別紙「番組審査の視点」も参考に審査すること
- ・審査員は専門職を加えた5名程度とする。
- ・審査基準に従い、1点刻みの100点法で採点する。
- ・集計は5人の得点合計で順位を決定する。ただし同得点の場合は専門職の得点の高い方を上位とする。
- ・集計係の役員審査員が顧問と共に得点を入力し、順位を決定し、審査員全員に周知確認し、部長に報告し決定する。
- ・ただし、番組部門において、出品作品が少ない場合は審査員の合議により順位を決定することができる。
- ・部長不在の場合は委員長、事務局長がその任を負う。

(4) 規定違反について

審査を公平に行うために下記のような処置を行う。（減点は合計点について）

- ・テーマに沿っていない・・・・・・・・・・県大会・北信越大会においては不問とする。
- ・規定時間の過不足・・・・・・・・・・+3秒以上は失格（CM部門は±1秒以上は失格）
- ・著作権等の処理の不備・・・・・・・・・・審査員、事務局と協議（不問か減点か失格）
- ・不適切な表現方法（映像・音声）・・・・・・・・審査員、事務局と協議（不問か減点か失格）
- ・提出期限に間に合わない・・・・・・・・・・失格
- ・再生不能・・・・・・・・・・失格
- ・申込と大会当日のタイトルが違う・・・・・・・・失格もしくは減点
- ・その他、大会後においても、上記規定違反の他、重大な違反が判明した場合には賞の取り消しをすることがある。

以上